

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

～国際感覚を備えた新しい時代のリーダーを育てる学校をめざす～

1. 生徒が希望する進路を実現することに繋がる確かな学力を育む
2. 国際理解教育の推進を図り、自己表現力、コミュニケーション能力を身につけることにより、グローバル化の進む社会で活躍できる人物を育てる
3. 夢を叶えるためのモチベーションを維持し、リーダーに必要な社会人基礎力を身につけた人物を育てる

2 中期的目標

1 確かな学力の育成【授業力】

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、基本的な学力の定着を礎に、進路実現に繋がる確かな学力を育む。また、各教科の授業実践とその検証を基に、関係する委員会を核として「わかる授業、やる気を引き出す授業」を目標として教員の授業改善に取り組む。
 - ア これまでの授業に加え、適材適所にICTの活用を推進し、学習内容の理解、定着をすすめる。
 - イ 各教科で教え方、使用する副教材（ICTの副教材やプリント等）の研究をするとともに好事例の情報共有を図る。
 - ウ 全ての教科・科目で、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。
 - エ 自ら考え、自ら発信する力を醸成するため、各授業で適宜アクティブ・ラーニングを導入する。つまり、一方向の受動的な授業から脱却し、生徒が能動的に学修する授業になるよう取り組む。そのことにより、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。（例えば、授業中に既習事項確認の発話（ディスカッション）の時間を設ける等）
- ※ 学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の肯定的回答を平成29年度の49.6%を、2020年度55%となることを目標とする
 - ※ 授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定的回答平成29年度74.3%、「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」についての肯定的回答平成29年度77.7%を2020年度80%となることを目標とする。
 - ※ 英語検定準2級以上の合格者合計、平成29年度163名を2020年度170名を目標とする。
- オ 教員の所属学年を超えて講習にあたる体制作りを通して講習の充実と学力の伸長を図る。
- カ 進路指導部・学年・教科が密に連携し、年間計画に基づいた学習指導、進路指導を行い、進路実現を図る。
 - ※ 大学入学共通テスト（新テスト）に向けて記述式問題への対応、英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験の活用を図る。
 - ※ 国公立大学現役合格者数平成29年度3名を、2020年度には7名を目標とする。
 - ※ 難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役のべ合格者数平成29年度141名を、2020年度には200名を目標とする。

2 キャリア教育に基づく自己実現の支援【自律・自己実現の支援】

- (1) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む。
 - ア マナーや常識、規範意識や協調性の大切さについて常に意識する。
 - イ 社会や学校のルールを守り、自発的に自分自身で考えて行動し、自分自身の規範に従って己を律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する。
 - ウ 生活指導部・学年等で密に連携し、基本的な生活習慣、校則の遵守などの生活指導を組織的かつ丁寧に行う。
 - ※ 頭髪、服装の乱れ、不注意による遅刻がないように指導を継続する。遅刻について平成29年度3148件を、2020年度1600件程度に減することを目標とする。
- (2) 総合的な学習の時間やHRを活用し、生徒の生きる力の醸成を図る。
- (3) 学校行事、国際関連行事、語学研修や部活動を通し、成功体験、失敗体験から「達成」と「克服」を経験し、社会人基礎力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。また、生徒が夢や志を持って自身の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を育む。
 - ア 集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、「協調友愛（校訓）」の精神を培い、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む。
 - イ 普通科、国際教養科の隔たりなく、国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外語学研修や留学生受け入れ等に取り組むことを推奨するとともに日本文化への理解を深める。
 - ※ 部活動加入率（3学年平均）、平成29年度66.8%を2020年度には70%に伸ばすことを目標とする。

3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】

- (1) 学習活動、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、「よりよい旭」に向けてチームワークを育み、目標を持って邁進できる組織を構築する。
 - ア 運営会議、職員会議などの充実を図り、教職員間の意思の疎通を図る。よりよい校務分担体制を確立し、学校運営を円滑に行う。
 - イ 前年踏襲ではなく、教職員が常に「改善」の意識を持ち、PDCAによる学校改革、授業改善に更に一丸となって取り組むよう努める。
- (2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。⇒ICT機器整備と活用促進を図り、授業改善、校務の効率化に繋げる。
 - ア 教職員間メールや掲示板の活用を推奨し、校務分担などの事務的作業の簡略化、授業準備の共有化を図る方法を教員主体で構築する。また、経費削減の意識を持って教職員間で使用するペーパーの削減をめざす。
- (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実を図る。
 - ア HPを更に充実させる。
 - イ クラブ等の地域行事参加
 - ウ 教員による中学校訪問、学校主催のオープンスクールや招致される進学説明会等の広報活動の充実を図る。
 - ※ 学力検査の応募状況、合格者分布等を精査し、積極的に進学説明会に参加する。また校内でオープンスクールを年3回開催する。合計1800名程の中学生、保護者の来校を目標とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>□肯定的回答（よくあてはまる、ややあてはまる）の割合 今年%（昨年%）</p> <p>●確かな学力の育成</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はわかりやすい。57.9%（49.6%） ・授業で分からないことについて先生に質問しやすい。66.6%（58.8%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは授業が分かりやすく興味深いと言っている。39.1%（38.2%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の精選・工夫を行っている。87.8%（82.7%） ・学習指導の方法や内容について工夫している。81.6%（86.5%） <p>【分析】</p> <p>生徒・保護者の回答で「授業がわかりやすい」の割合が低いことに対して、学校として真摯に受け止め、3年間力を入れて取り組んできた。その結果、生徒の回答においては昨年比 8 ポイント上昇させることができた。別途実施の授業アンケートでは 80%の生徒より、授業に興味関心を持ち、知識や技能が身についたと感じているという肯定的な評価があった。また、81%を超える教員が、教材の精選・工夫や学習指導の方法や内容について工夫していると回答している。ただ、保護者の回答で「子どもが授業が分かりやすいと言っている」が 40%弱であることは、子どもが苦手な科目に関しては興味を持つところまでの指導が、未だ十分ではないと捉えて一層の授業改善の研究を進めたい。</p> <p>●学校生活全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しい。79.8%（75.9%） ・将来の進路や生き方について考える機会がある 84.1%（80.8%） ・先生はいじめ等困っていることに真剣に対応してくれる。60.1%（50.0%） ・担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる。61.0%（56.9%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは学校に行くのを楽しみにしている。80.0%（77.9%） ・将来の進路や生き方について適切な指導を行っている。66.2%（64.3%） ・学校の生徒指導の方針に共感できる。68.4%（61.1%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は生徒の意見をよく聞いている。77.6%（88.5%） ・生徒の問題行動が起こったとき組織的に対応できる。71.4%（57.7%） ・生徒はクラス担任以外の教職員とも相談できる。73.5%（57.7%） <p>【分析】</p> <p>「学校に行くのが楽しい」「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」は生徒、保護者ともに少し増加した。「将来の進路や生き方について考える機会がある」と答えた生徒は 4 ポイント上昇した。進路指導部を中心に多様な説明会・進路行事を行っている結果だといえる。保護者の「学校の生徒指導の方針に共感できる」が 7 ポイント上昇している。体育祭応援団の指導について、本年度の体育祭も見ていただいた上でご理解が進んだものと思われる。</p> <p>生徒相談に関する「先生はいじめ等困っていることに真剣に対応してくれる」は 60.1%で少し低いように思われるが、実際は無回答が 25.5%もあり、他の項目にはこのような傾向は見られない。おそらく実際にいじめにあっていないためわからない、というものが多数含まれると考えられる。また、昨年度と比べると 10 ポイントも増加しているのは、年に 3 回のいじめアンケートなどのいじめを見逃さない取り組みが徐々に知られてきていると分析している。</p> <p>●学校経営・施設整備全般</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室等は授業や生活がしやすいように整備されている。59.6%（52.1%） ・学校からの諸連絡を保護者に漏らさず伝えている。69.3%（61.3%） <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設・設備は学習環境面でほぼ満足できる。42.4%（47.9%） ・子どもは学校からの諸連絡を漏らさず伝えている。60.5%（62.8%） ・学校が家庭連絡を積極的におこなっている。57.3%（54.7%） <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に教職員の意見が反映されている。65.4%（61.5%） ・分掌や学年間の連携が円滑に行われている。40.8%（40.4%） ・教育活動について生徒・保護者への周知に努めている 67.3%（63.5%） <p>【分析】</p> <p>施設設備の老朽化とともに教室が狭い、トイレ環境が悪いなど生徒、保護者ともに改善の要望が強い。学校からの情報発信については、昨年度より行っているホームページでの学校配布プリントの題名掲載、また学年のメールマガジンなどで、保護者からの肯定的回答が 3 ポイント増加した。</p> <p>教員の「分掌や学年間の連携が円滑に行われている」については、昨年度 SHK 委員会を新設し大幅に上昇（13 ポイント）したが、本年度はほとんど変化がなかった。教科、学年、分掌等の組織体制のさらなる情報共有が、課題である。</p>	<p>□第 1 回（6 月 18 日） 「旭高校の魅力づくりに向けて」（協議）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 校長挨拶 (2) 委員自己紹介、事務局員自己紹介 (3) 今年度の学校経営目標と現状報告（校長） (4) 各分掌の取組み <ol style="list-style-type: none"> ①進路指導部 ②生活指導部 ③保健部 ④図書教養部 ⑤情報部 (5) 協議（主な提言等） <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が携帯・スマホを校内に持ち込まないという旭高の生活指導方針の意義は理解できるが、今後の地震災害等の危機管理を考えたときに検討課題である。 ・体育祭の応援団活動で、係の先生と生徒で話し合いながらルールを作って取り組めたことは、生徒たちにとって良い経験になったのではないかと。活動ルールを、これからどう受け継いでいかせるか課題である。 ・クラスに勉強する雰囲気が乏しいのではないかと危惧があるが、確かに授業時間以外にははしゃいでいる生徒もいる一方、早朝から登校して自学自習に取り組む生徒もいる。みんなで進路に取り組む雰囲気を作ってほしい。 ・進路については、生徒保護者とも関西圏の家から通える大学ということで、私立大学の志望者が多いということだが、地方の国公立大学も良さをもっとアピールしてはどうか。 ・今後の大学入試改革の動向を注視して、対応してほしい。 (6) 校長謝辞 <p>□第 2 回（10 月 5 日） 「旭高校の魅力づくりに向けて」（協議）</p> <ol style="list-style-type: none"> (0) 授業見学 (1) 校長挨拶 (2) 委員近況報告 (3) 中学校訪問および新たな取り組みについて報告（首席） (4) 各分掌から報告 <ol style="list-style-type: none"> ①進路指導部 ②生活指導部 ③図書教養部 (5) 協議（主な提言等） <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学では AET も加わった英語の授業の様子がよくわかった。少人数で中身の濃いコミュニケーションの授業で、生徒も積極的に参加し楽しそうであった。アクティブ・ラーニングを意識できていたように思われる。 ・先生が生徒の発言に対し、多様な表現で声掛けをし、ほめていた。 ・不審者情報や災害対応など、同地域の学校で情報交換・情報共有をしていけたらよい。 ・中学校訪問について、関係の深い中学校と年に 1 回でも情報交換することが重要かもしれない。生徒や保護者の口コミも大きい。 (6) 校長謝辞 <p>□第 3 回（1 月 28 日） 「学校経営計画および学校評価について」（提言）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 校長挨拶 (2) 委員近況報告 (3) 学校経営計画および学校評価について（校長） (4) 学校教育自己診断について（教頭、各学年） (5) 広報活動について（首席） (6) 平成 31 年度教科書選定について（教務） (7) 平成 31 年度入学生教育課程について（教務） (8) 協議（学校評価および提言） <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の設問「授業が分かりやすい」、授業アンケートの設問「授業内容に興味関心を持つことができた」「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」のどの設問でも、生徒の肯定的回答が昨年より伸びていることを見て安心した。 ・平成 31 年度学校経営計画の中では、めざす学校像として「情報化、グローバル化に対応して…」とあるが、情報化の負の側面にも注目し「情報化社会の中での安心安全」にもポイントをおいた取り組みがあってもよい。 ・また、同じくめざす学校像の中で「多文化理解教育を一層推進…」とあるが、国際交流をしようとするとき求められる力の一つは、日本文化への理解と情報提供である。こうしたことをふまえた国際交流への取り組みであってほしい。 ・PTA への学年別メルマガの発信など、学校の様子がうかがえてよい。学校が家庭連絡に積極的に取り組んでいることを評価する。 ・以上の協議をへて「平成 30 年度学校経営計画及び学校評価」、「平成 31 年度学校経営計画及び学校評価」が承認された。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">確かな学力の育成【授業力】</p>	<p>(1) 基本的な学力の定着を礎に、進路実現に繋がる確かな学力を育む。また、「わかる授業、やる気を引き出す授業」を目標として教員の授業改善に取り組む。</p>	<p>(1) ア ICT等を用いて教育活動の活性化 ・総合 HR 研修委員会を中心に、研修を実施し、授業やクラス活動においても活用率を高めるとともにわかる授業を行う。 イ 副教材の研究、及び教科における情報の共有化を図る。 ウ 授業で、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を養う。 エ アクティブラーニングを取り入れ汎用的能力の育成を図る。 ①アクティブ・ラーニングには発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効な方法であるので取り入れる。 ②平成 29 年度の授業アンケートを参考にし、授業力の向上を図る。 オ 各部署が連携し、学習指導、進路指導を行い、進路実現を図る。 ①講習・補習を充実させ、学習の機会を増やす。自宅より学校での学習により力をつける生徒もいるので常設ではないが自習室の設定等を行う。(余裕教室がなく、常設としての自習室がつかれない) ②センター試験、英語検定試験受験を推奨する。 ③各教員の授業力の向上とともに生徒一人ひとりに向き合う相談体制の確立を図る。 ④学校教育自己診断等の結果を踏まえ、年間実践の振り返りと課題探索を行う。</p>	<p>□学校教育自己診断の結果 ●「授業はわかりやすい」についての肯定的回答、平成 29 年度の 49.6%を 50%以上にする。 □授業アンケートの結果 ●「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答、平成 29 年 74.3%を 75%以上にする。 ●「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答、平成 29 年度 77.7%を 78%以上にする。 □取り組みから ●英検準 2 級以上の合格者数を平成 29 年度 163 名から 165 名にする。 ●センター試験受験者数を平成 29 年度 157 名から 160 名になることを目標とする。 ●国公立大学現役合格者数を平成 29 年度 3 名を 5 名にすることを目標とする。 ●特定私立大学合格者数による観測のために、特定の私立大学(関関同立・産近甲龍・関西/京都外大)現役合格者を経年で比較する。平成 29 年度 141 名を 180 名以上にすることを目標とする。 ●語学関係行事 ①英国語学研修及びその事前研修を充実させ、実施する。 ②オーストラリアからの姉妹校生徒の受け入れを充実させ、実施する。 ③留学生の受け入れを積極的に行う。 ④語学力を高めるため、語学系の暗唱大会やインターナショナルフェスティバル等への参加を推奨する。 ⑤英語 4 技能評価にかかる民間の資格・検定試験の活用について本校にあうものを選定する。 ⑥大阪及び近畿の国際関係高校の会長校として、総会、研究協議会を運営する。 ●補習・講習など各種講習を充実させ、学習の機会を増やす。 ●特別授業 生徒の興味・関心を高め、視野を広げることができるよう有意義な特別授業を実施する。 ●大学入学共通テスト(新テスト)に向けて記述式問題等への対応を教科で検討する。</p>	<p>□学校教育自己診断の結果 ●「授業はわかりやすい」についての肯定的回答、平成 30 年度 57.9% (◎) □授業アンケートの結果 ●「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答、平成 30 年 80.5% (○) ●「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答、平成 30 年度 82.5% (○) □取り組みから ●英検準 2 級以上の合格者数 150 名 (△) ●センター試験出願者 96 名 (△) ●国公立大学現役合格者数 2 名 (△) ●難関私立大学合格者数 (△) 産近甲龍・関西/京都外国大 現役合格者 166 名 ●語学関係行事 (◎) ①1 年生 2 1 名、2 年生 7 名、計 2 8 名参加。事前学習において、日本紹介のプレゼンテーションを準備し、現地で発表した。また、帰国後事後研修を行った。 ②生徒 1 5 名、教員 2 名を受け入れ。主に、1・2 年生の授業(国際理解など)や 1 年生 HR で親交を深めた。姉妹校として、これからもよりよい関係が継続できるよう教員間での交流を深めた。 ③長期留学生として、ドイツ人 2 名、イタリア人 1 名、韓国人 1 名、短期留学生としてアメリカ人 1 名を受け入れている。 ④インターナショナルフェスティバルへは 1 年校内レシテーション大会の優勝者、2 年校内スピーチ大会の優勝者、2 年第二外国語暗唱大会、6 言語それぞれの優勝者、留学生スピーチ合計 9 名が参加。 ⑤今年度は希望者による試験実施として行った。次年度は学年の取組みとして行う予定。 ⑥主管の滋賀県の運営により、講演、実践発表とも有意義なものとなった。 ●補習・講習 (○) ・国語・数学・英語・理科・社会で講習を実施。 ・大阪大学「教職実践演習」を受け入れ放課後の学習サポートをのべ 1 3 回実施。 ●特別授業 (○) ・英語即興ディベート 国際教養科 3 年 ・英語落語 国際教養科 3 年 ・租税教室 普通科 2 年 ●大学入学共通テスト(新テスト)へ対応検討 (○) ・GTEC(スコア型英語 4 技能検定)の実施 ・将来構想委員会の発足</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
キャリア教育に基づく自己実現の支援【自立・自己実現の支援】	<p>(1) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 生徒の「生きる力」の醸成を図る。</p> <p>(3) 「達成」と「克服」を経験し、社会人基礎力を養成する。また、生徒がよりよく社会に参画する態度を育む。</p>	<p>(1) ア 規範意識や協調性の大切さについて常に意識する。</p> <p>イ 社会や学校のルールを守り、自発的に自分を律することができる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する。</p> <p>ウ 生活指導部、学年等で密に連携し、基本的な生活習慣、校則の遵守などの生活指導をしっかりと行う。</p> <p>①指導方針の明確化を図り、全教職員一致して実践する。</p> <p>②頭髪や服装の乱れに注意し、不注意による遅刻をなくすよう継続して指導する。また、挨拶を励行し礼儀を身につけて、社会人としての規範意識や協調性を培う。</p> <p>(2) ①総合的な学習の時間やHRを活用する。</p> <p>②SNS 対策、薬物乱用防止など、生徒の安心、安全に係る行事、講演会の取り組みは継続して行う。</p> <p>(3) ア 集団活動の機会と環境を提供し、積極的に取り組むことで他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む。</p> <p>イ 国際交流、海外語学研修や留学生の受け入れ等に取り組み、国際感覚を醸成するとともに日本文化への理解を深める。</p> <p>ウ 部活動支援のための協力体制を強化する。</p> <p>①学期毎に各部の活動状況、生徒の様子把握等に取り組む。</p> <p>②部活動休養日の実行</p> <p>③体育祭、文化祭等の学校行事の充実、国際理解教育の実践、国際交流の充実に取り組み、英語教育力の向上を図る。</p>	<p>□生活指導関係</p> <p>●遅刻者数を減らす</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度は年間遅刻数（3 学年合計）が平成 28 年度より増えて 3148 件であった。平成 30 年度は 2200 件程度にする。 <p>●生徒手帳の記述を見直す</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒心得だけでなく他の記述についても表現等を見直す。 <p>□行事関係</p> <p>●生徒指導に関する行事</p> <p>危機管理の一環としての避難訓練や、社会生活をおくるうえで SNS や薬物の危険性について、情報を得て判断ができるように講演を実施する。</p> <p>そのため、講演又は研修を 2 回以上実施する。（平成 29 年度は 2 回）</p> <p>●進路指導に関する行事</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路に関する行事を充実させ、選択肢を示しながら生徒が希望する進路実現に繋げていく。 * 学力診断テスト、模擬試験等を学年毎に 2 回以上実施。（平成 29 年度 3 年 5 回、2 年 3 回、1 年 2 回） * 進路に関する説明会及び講演会を 4 回以上実施。（平成 29 年度は 4 回） * 大学見学会、卒業生と懇談、大学による模擬授業等を実施。（平成 29 年度は各 1 回） <p>●国際理解教育に関する行事</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流を推進し、生徒の国際感覚を醸成できる環境を提供するとともに日本文化への理解を深める。 * JICA 関西等への訪問（平成 29 年度は 4 回） * JICA による来日した技術研修員等の受け入れ（平成 29 年度は 4 回） ※ただし、JICA 行事は抽選等のため変更の可能性有 * 授業「国際理解」の充実 * カルタ大会の実施や国際交流時に日本文化を紹介できるようにする <p>●部活動加入率</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度の部活動加入率（3 学年平均）66.8% を平成 30 年度 68% 以上にすることを目標とする。 	<p>□生活指導関係</p> <p>●遅刻者数 3067 件（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 学年 381 件 2 学年 972 件 3 学年 1714 件 ・全体的には昨年度よりも微減傾向であるが、大幅改善には繋がっていない。学年が上がるにつれ増加しており、また、全体的に登校時間が遅くなっている傾向もあり、改善策を検討しなければならない。 ●各分掌等で原稿をチェックし、改善した。今後も時点修正等を含め年度ごとに見直す。（○） <p>□行事関係</p> <p>●生徒指導に関する行事（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル講演会（1 年生）講師：篠原嘉一（NIT 情報技術推進ネットワーク株式会社代表取締役）（4 月） ・薬物講演会実施（1 年生）講師：旭警察署（6 月） ・薬物講演会実施（3 年生）講師：大阪府警少年課（11 月） <p>●進路指導に関する行事（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施模試 3 年 5, 7, 9 月 2 年 11, 2 月 1 年 11, 2 月 看護医療模試（5, 9, 2 月） ・学力診断 1 年・2 年（4, 8 月） ・実力考査 3 年（4, 8 月） ・1 日看護師体験（2 年 8 月） ・生徒対象進路説明会 3 年（四大、大学短大指定校、専門学校指定校、センター、国立、就職、公務員） 2 年（6 月進路別、7 月学校別） ・国公立合格者によるアドバイス会（2 年 3 月） ・卒業生招聘講演会 大阪リポートスポーツ専門学校教員（1 年 11 月） ・各種奨学金説明会 ・保護者対象大学進学説明会（ファイナンシャルプランナー招聘）2 回（5 月 123 年 2 月 2 年） ・講師招聘進学講演会 1 回（2 年 3 月） ・1 年大学見学会（10 月国公立 10 キャンパス） ・2 年模擬授業（大学より 15, 16 講座から各 1 講座） <p>●国際理解教育に関する行事（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年 JICA 関西訪問（7 月 80 名。留学生を含む） ・2 年生国際理解 <ol style="list-style-type: none"> ①永崎裕麻さん・卒業生久保まりかさん（国際教養科 22 期生）によるフィジーについての講演会の実施。（6 月） ②服部恵美さんによるドミニカについての講演会の実施。（9 月） ③インドネシア・日本国交樹立 60 周年を記念して、インドネシア芸術団の受け入れ。（12 月） ④カルタ大会は 1 年生で実施。 ⑤オーストラリア姉妹校生が来校した時に、生徒がグループで日本の文化等を紹介したり、「大阪くらしの今昔館」を訪問し、日本の昔の暮らしぶりを学んだ。 ⑥今年度 JICA による来日した研修員等の受け入れ依頼はなかった。 <p>●部活動加入率（△）</p> <p>平成 30 年度部活動加入率（3 学年平均）66.5% 運動部 14、文化部 10、同好会 2 の計 26 部。 学年別 1 年生 76.7%、2 年生 68.1%、3 年生 55.5%、 男女別 男子 78.5%、女子 61.4%</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】	(1) 取り組みの共通理解	(1) 教育活動に関する教職員の共通理解を深め、「よりよい旭」に向けてチームワークを育み、目標を持って邁進できる組織を構築する。 ア①運営会議、職員会議などの充実を図り、校務分担体制を確立する。 ②総合 HR 研修委員会の活動を本格化する。 ③修学旅行委員会は定着し、学校の教育活動を見据えた修学旅行を検討する。 イ 教職員が常に「向上」の意識を持ち、PDCAによる学校改革、授業力の向上に一丸となって取り組むよう努める。 ①担任と副担任が協力して学級運営にあたる。 ②教職員全員が「向上」の意識をもつ。	□学校運営：年間を通しての取組み ●教職員研修 総合 HR 研修委員会において教職員研修を担当し、企画、運営する。 教職員に対してベーシックな研修と発展的な研修を設定し、教員力の向上をめざす。 *クラス開き研修、ICT 機器活用研修等 *生徒理解のための研修を年3回以上実施 (平成 29 年度は3回)	●教職員研修 (△) 授業公開期間 (相互授業観察) 6 月中旬、11 月中旬 生徒理解のための職員研修 9/21 12/4 1/11
	(2) ICT の活用	(2) 教職員間メールや掲示板の活用を推奨し、事務的作業の簡略化を図り、経費削減の意識を持って教職員間の使用ペーパーの削減をめざす。	●学校教育自己診断の結果 ・「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」についての肯定的回答、平成 29 年度の 53.8% を 60%以上にする。 ・「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。」についての肯定的回答、平成 29 年度の 51.9% を 55%以上にする。 ・「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」についての肯定的回答、平成 29 年度の 55.8% を 57%以上にする。 ●校務への ICT の活用 連絡については、メール等を活用し印刷物を減らす。 生徒情報等機を逃さずに共有する。	●学校教育自己診断の結果 ・「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」についての肯定的回答 59.2% (△) ・「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。」についての肯定的回答 81.6% (◎) ・「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」についての肯定的回答 53.1% (△)
	(3) 地域連携	(3) 広報活動の充実と拡大 ①地域コミュニティー等や小中学校との連携と貢献を図る。 ②中学校訪問や学校説明会の際に持参する資料の充実、及び学校紹介の仕方の共有を図る。広報活動実施後のまとめや反省を校内で行い、今後に繋げる。	●地域連携 旭区内唯一の公立高校として、地域との関わりや行事に積極的に参画し、連携を深める。 *高殿小学校児童の体験授業 (平成 29 年度 1 回) *旭陽中学校への出前授業および本校の説明 (平成 29 年度各 1 回) ●広報活動 ・HP の更なる充実を図り、更新を月平均 3 回以上とする。 ・平成 29 年度入学者の地域分布を精査して中学訪問校数や学校説明会参加数を調整する。 ・オープンスクールは平成 29 年度は 3 回実施し、その来校者は 1741 名であった。 平成 30 年度も 3 回以上実施するが、課題もあるので方法等を改善し、よりよいオープンスクールを実施する。	●校務への ICT の活用 (○) 旭高校掲示板およびメールを使用して迅速な連絡や生徒情報の共有を図ることができた。 ●地域連携 (○) ・高殿小学校児童の体験授業 11/17 実施 ・旭陽中学校への出前授業 (本校留学生との交流) 12/7 実施 ・吹奏楽部 福祉施設通所者を招きミニコンサート ・水泳部 地域自治会の祭りにボランティア参加 ●広報活動 (○) ・HP の更新を月平均 3 回以上行うことができた。生徒会や部活動顧問などの協力もありブログなど更新をすることができた。 ・中学校訪問 82 校 ・オープンスクール 3 回実施 来校者 1739 名 ・12 月実施のオープンスクールは土曜日午前中開催にし、在校生への影響を抑えた。